

<一体型と分離型の比較>

	施設一体型（三条嵐南）	施設分離型（しただの郷）
校長	小中1人（2） ・四者会議（月1ペース） ◎直ぐ検討・調整できる ◎常に全体を俯瞰できる（見える）	各校小中1人（計6人） ・学園校長会（月1ペース） ・連絡を取り合って実行へ
教頭	小2人、中1人（3）	各校小中1人（計6人） ・校長指示の下、実行
教育課程・活動 *職員にとっても子どもにとっても環境が良い	○基本は小中別。 （玄関、放送、校時表、行事、体操着など） ◎連携する部分は直ぐ取り組める 学園のGD、CS →学校のGD、CS ・Face to Face! ・移動なし ・打合せ、検討 ・調整 ・実行、振り返り ◎職員交流(直ぐ・一緒・広く) ・毎日、互いの様子がわかる （服装、態度、地域性など） ・指導の内容と方法 ・生徒指導 ・引継ぎ	○連絡・調整・移動で時間が掛かる ・役割分担が明確 ○年に数回しか会わない ・地域性は違う ・行き来する中で様子がわかる

<一体校 Face to Face のありがたさ>

	活動等	実際
情報連携	・日常的に随時 （子ども、保護者、地域、教科指導、生徒指導など） ・スムーズな引継ぎ →中1ギャップ解消	・小中同時にリアルタイム
行動連携	○移動の支障がない ・子どもの交流活動がスムーズ ➡全国学調のアンケート結果 一中生の「自分にはよいところがある」が全国平均よりも高い。否定的な意見は全国比半分以下	・乗り入れ授業、交流授業 ・中2・小6 体験活動発表 ・中1・小3 市内巡検発表 ・中1・小5, 6 いじめ～ ・R8…高学年の立会演説会参加
カリキュラム連携	○小中9年間を貫く柱 ・主体的・対話的で深い学び	・80人以上の全職員による計画的な小中合同会議開催（年3回）